

研究課題：原発性腎癌の画像的肉眼形態と病理形態像の比較検討に関する後ろ向き研究

実施責任者：	放射線科	医員	立入哲也
実施分担者：	放射線科	教授	吉川公彦
	総合画像診断センター	講師	丸上永晃
	泌尿器科	教授	藤本清秀

研究目的：近年、画像撮影の機会増加や検診の普及から、小径腎細胞癌の発見する頻度が増加しています。また腫瘍径 4 cm 以下 (T1a) の腎癌に対しては根治的腎摘除術と同等の制癌性を有し、腎機能保持の面で有用とされる部分切除術が推奨されています (2017 年腎癌診療ガイドライン グレード A)。さらに最近では腎機能温存を目的として、4cm 以上の腫瘍に対しても部分切除術の適応拡大が試みられることが多くなっています。しかしながら、これら拡大適応は腫瘍局所再発の危険性とはトレードオフの関係にあると考えられ、特に腎内方への浸潤の評価を正しく行うことが安全な腎部分摘出術に行うに必要と思われます。

そこで今回は後方視的に腎細胞癌を 3 つの肉眼的形態に分類し、それらの腎内方への浸潤の有無を検討することで、より正確で簡便な評価方法の探求を目的とします。

研究意義：術前から腎内方への浸潤を予測することが可能になることから、より正確なTステージ分類が可能になると思われます。適切な症例選択により、安全な腎部分切除術が可能になると考えます。

対象：研究対象者は当院で 2007 年 1 月 1 日～2017 年 10 月 31 日の間に手術が施行された患者様 550 例のうち、術前画像検討が可能であった患者様です。対象者数は約 310 例を予定しています。

研究期間：この研究は、研究実施許可日から 2020 年 12 月 31 日まで行う予定です。

研究方法：上記研究対象となった画像を検討し、腎癌の肉眼的形態と病理学的浸潤の相関性について検討項目を評価し、データを数値化します。患者様情報として利用するのは、患者様の年齢・性別を利用する予定です。

当該研究に参加することにより期待される利益および起こりうる危険ならびに必然的に伴う心身に対する不快な状態について：対象患者様が受ける不利益はありません。

承諾拒否について：当該研究にご承諾いただけても対象患者様が不利益を受けることはありません。

個人情報の取り扱い：収集した情報は名前、住所など患者様を直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたしますので、個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

その他：この研究のために、患者様に新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。また、研究の対象となる患者様に謝礼はありません。この研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。本研究は奈良県立医科大学医の倫理委員会により承認されています。

上記の研究の対象に該当する患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合には、奈良県立医科大学付属病院放射線医学教室までご連絡ください。

問い合わせ先：立入 哲也（奈良県立医科大学 放射線科）

〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840

TEL 0744-29-8900

e-mail rad@narmed-u.ac.jp